

令和7年度第3回府中市市民協働推進会議 会議録

- 開催日時 令和7年7月24日（木）午後2時から4時15分
- 開催場所 府中駅北第2庁舎3階 打合せ室
- 出席委員 青山会長、関根副会長、芝委員、柴原委員、高橋委員、田中委員、丹野委員、野原委員、花岡委員、和田委員
- 欠席委員 五十嵐委員
- 事務局 大井市民協働推進部長、福嶋協働共創推進課長、加瀬協働共創推進課主査、本田協働共創推進課主査、小堀協働共創推進課主任、小池協働共創推進課主任
- 傍聴者 0名

■議事内容

1 審議事項

- (1) 「市民協働の推進に関する計画（仮称）」に関するアンケートについて
- (2) 「市民協働・共創促進事業」の評価基準等の修正について
- (3) 市民協働の取組の進捗管理について
 - ・第7次総合計画「協働により推進したい取組み」の進捗状況
 - ・令和6年度協働事業実績調査

■会議録

○会長 これより第3回府中市市民協働推進会議を開催いたします。議事録の作成にAIを活用するため、マイクを使って発言いただくようお願いします。事務局から委員の出席状況などについて報告をお願いします。

○事務局 ご出席いただきありがとうございます。本日は机にマイクを置かせていただいております。文字起こし機能により会議録作成の精度を上げるため、発言の際はマイクをお使いいただくようご協力をお願いします。委員の出席状況については、五十嵐委員から欠席の連絡を受けていますが、定数11名のうち過半数の委員の皆様に出席をいただいておりますので、本会議が有効に成立していることをご報告します。また、傍聴希望者はいませんでした。

○会長 ありがとうございます。続いて、事務局から配付資料の確認をお願いいたします。

(配付資料の確認)

○会長 ありがとうございます。本日は次第のとおり審議事項が3点あります。本日は特に審議や意見交換に十分な時間を確保できるよう、また全員が発言できるよう配慮しながら進行したいと思いますので、ご協力をお願いします。前回の議事録は事前に2回ご確認いただき、修正したものを会議資料とあわせて送付しましたが、追加で修正やご意見はありますか。

(意見なし)

○会長 ご意見がなければ資料と議事録を確定しますので、事務局は公開の手続きをお願いします。

○委員 議題に入る前にお時間いただければと思います。ただいま会長がおっしゃった議事録と事務局の言う会議録とでは、ものが違うと思います。会議録に関しては前回要望させていただいたとおり早めに作成いただけたので継続していただきたいですが、要望としては議事録を作成していただきたいです。会議録は発言録のようなものだと思いますが、議事録は、決議されたものや懸案事項、出たアイデア、そして持ち帰って検討することになったものについては、一般的にはアクションアイテムというかたちでまとめて、誰がいつまでにやるのかをお互いにコンセンサス、共通認識を持ち、次回でそれがどうなっているのか進捗報告をするものだと思います。その間に何も手を付けられなかったということももちろんあると思いますが、それも報告、共有するということが大事だと思います。特に第1、2回目の会議で事務局が検討すると言った内容が検討されているのか、検討の末にどうなったのか、検討していないのか、せっかくアイデアを出してもどうなったかわからないまま次の回に入ってい

ます。その結果、「前回も言いましたが」というように再度発言するようなことが起こったりします。また今回のアンケート依頼もそうですが、アクションアイテムがはっきりわかっていないといつまでに自分は何をやらなくてはいいか、お互いがわかって行動するためには議事録が必要で、議事録とアクションアイテムの確認をすることがより充実した会議になると思います。会議録はこれまでの慣習などがあると思いますのでこのまま作っていただいて、公開するということがよいと思いますが、この会議のメンバーとしては、議事録が作成され、それに基づいて行動したいと思います。前提としてこの会議の位置づけですが、第6期目までやってきてそれなりのルーティンややることが決まっており、それをしっかりとこなしていく会でもあることは認識していますが、市長が企画立案したことを市役所が実施運営する、つまり政治があって行政が運営して市民がいるという構図の中で、その行政と市民の間の部分がこの会議ではないかと思っています。その流れが、水のように上から流れてくるものを落としていくようなものを感じます。それも大事ですが、それ以外にこの会議自体も協働活動の一つではないかと考えているとこれまで発言していますが、それに対して明確に見解をいただいていないと思いますので、この見解は正しいか、市民協働推進部長に伺えますでしょうか。

○会長 ご意見とご質問がありました。最後の質問について事務局から回答いただけますでしょうか。

○市民協働推進部長 ご意見ありがとうございます。今までいただいたご意見に対してお答えできていない部分もあったということですが、おっしゃっていただいたとおり、この会議には色々な団体の方、市民の方に来ていただいております、まさに協働で色々なものを作っていくかたちになります。一般的に市の審議会は、市から提案するものをご確認いただき、ご承認いただく流れになっていることが多いですが、色々な意見をいただいて、一緒になって作りあげていくという考え方はおっしゃっていただいたとおりですので、忌憚ないご意見をいただき、変えるべきところは変えていきたいと考えております。

○委員 ありがとうございます。これまでの延長でしっかりと継続してやっていくということは大前提だと思いますが、一般的にも3～5回目くらいで立ち止まってレビューをして、このかたちでいいのか、もっといい方法はないか考えるタイミングかだと思いますので、提案しています。またそもそも、協働とは何かというものが共有されていないのではないか、ということが大きな疑問で、選挙のように大きく三つの階層に分けて例えると、上に支持層、下に批判層あるいは積極的無関心層があり、その間に無党派層のような、知らないから行動しないといった人たちがおり、そこにどうアピールしていくかということがこの会議の大きな主題のひとつだと思います。少なくともここにいるメンバーは基本的にいわゆる支持層だと思いますが、支持層のメンバーですら理解できていないことが無党派層に伝わるわけがないと思います。ここで委員皆が同じ方向を向いて、同じ定義で、市民に対して同じように、こんなことに取り組んでいるんだよ、とか、アイデアをください、とかが言える、支持層固

めのようなものをしなくては、協働がなかなか浸透していかないと思います。以前協働のリーフレットももらいましたが、基本原則を見ると、皆で協力すること、かつそれぞれの立場や環境を尊重するというので、ここには有識者や経験者が集まっていることから振返りは大事だと思います。何より対等な立場で話し合うと基本原則に書いてあるにも関わらず、上から降りてきたものを審議して、委員からのアイデアは上申するかたちで検討します、で終わっているようでは対等感がない気がします。検討するとしたことについては次の回までに検討し、それを報告いただく、委員も頼まれたことはちゃんとやるという、フラットな立場で話し合うことが大事だと思います。そういう意味で議事録が大事で、検討することややることを皆で確認し合い、次の回に状況を確認しあうようでない、意見を言ってもなかなか参考にしてもらえない会議になってはもったいないと思います。そのような意図から、会議録とは別に、決議事項や懸案事項、アクションアイテムを記載した議事録を作成していただきたいです。

○会長 会議録とは性格が違うものということで、会議録は誰が何を発言したかを記録したもので、公開されますので、会議に参加していない市民の方にも内容がわかるようにするために必要なものです。一方、議事録はこの会議の進め方に関わるもので、会議が終わったところで何が決まったのか、何が懸案事項なのか、それについて誰が何を検討しているのかをきちんとまとめておくこと、それを次の会議でどうなったか報告していけば毎回の積み重ねがされていくものと理解します。他の委員から意見はありますか。なければ、事務局としてはいかがでしょうか。

○事務局 ご意見ありがとうございます。これまで決議事項や懸案事項や、いつまでに誰が何をするのかといった点をまとめてご提示できておらず、振り返りがしづらい状態になっていましたので、次回からは整理してお示しできるように対応いたします。

○委員 たとえば具体的には、第1、2回目の会議でも認知活動ができていないということで、回覧板を回すことを検討してはどうかという意見がありましたが、検討が進んでいないように思います。なぜ進められないのか、何かハードルがあるのであればそれを検討すればいいと思いますし、進めるにはどういう協力をすればいいのかが示されれば、アクションができると思いますので、そのような課題が解消されればいいと思います。検討事項として持ち帰ったことがどうなっているのかは責めるものではなくて、この会議をより更新させるためであり、たとえば8月の「協働・共創促進事業」の審議会が無くなった件についても、無くなったこと自体の報告はよいですが、対象者がいなかったということが問題だと思います。次は12月にあるということなので、どう参加者を募ったり、参加する意欲を高めたりするかを一緒に考えていくためのアクションをとることを、お願いをしています。

○会長 ありがとうございます。会議録は今回から文字起こし機能を使ったかたちになりますが、AIにプロンプトを入れれば会議で何が決まったのか、次回何をするのかまとめてく

れますので、事務局の負担をさほど増やさず対応できると思います。この後の審議事項3で様々な協働事業の進捗管理をする中でも、ここがうまくいっていない、という話が出てくると思いますし、アンケートに回答いただいた審議事項1でも、周知のためには具体的にどういことを行っていけばいいのか話しますので、これから作ろうとしている計画に落とし込んでいければと思います。そうすることで予算がつき、市として継続的に実施していく可能性がでてきますので、ご意見をいただければと思います。それでは、審議事項に移ります。審議事項1、「市民協働の推進に関する計画（仮称）」に関するアンケートについて、事務局から説明をお願いします。

○事務局 説明します。

（審議事項1について、アンケートの集計結果を説明する前に、「府中市市民協働の推進に関する基本方針」（以下、基本方針）と「市民協働の推進に関する条例」（以下、条例）の関係性について、第1回会議の資料8-1を用いて改めて説明。これまで基本方針が担っていた役割は、条例と策定予定の「市民協働の推進に関する計画（仮称）」（以下、計画）に移行するため、計画の策定をもって基本方針は役目を終えて廃止となり、計画に引き継ぐことになる。今回のアンケートでは、基本方針が役目を終えても問題がないよう、基本方針に記載されていた事項のうち、計画に残すべき事項は何かなどを伺った。いただいた意見等は、次の第4回会議で示す「計画骨子素案」を作成する際の参考にする。

資料1は、委員からの回答の集計結果であり、非公開の参考資料1は回答をそのまま記載した一覧表である。Q3「基本方針には記載がないが、今回策定する計画で新たに記載した方がよいと感じるもの」に対して複数人から回答をいただいたものとしては、「計画の成果を評価するための数値目標の設定」や「計画の前半で他の行政計画との関係性や定義を分かりやすく表現すること」等であった。Q4「自身の活動において、市民協働に関して課題と感じていること」に対して多かった回答としては、「若者世代や現役世代の参画」に関すること、「市民協働に対する市民への浸透」に関すること、「人材育成」に関することなどであった。）

○会長 説明が終わりました。これまで府中市の市民協働に関わるものとして、まず「市民協働都市宣言」と基本方針がありましたが、それをより充実させるために条例を作り、今回はさらに具体的な部分を計画として作りあげていきたいと思います。基本方針の中から計画の中に残していくものについてアンケートを取りましたが、これだけで計画ができるわけではありませんので、基本方針には無かったが計画に盛り込んでいく必要がある内容についても、アンケートを取りました。本日は一人ずつご意見いただきますが、特にQ3、Q4について発言いただければと思いますので、順番をお願いします。

○委員 協働・共創の窓口への提案件数と、そのうち実際に実現した事業の件数、また資料4-2にあるような新規事業数について、計画に目標値があるとよいと思います。また現役

世代に情報を届けることも課題だと思いますので、それを計画に入れることで少しずつでも浸透するのではないかと思います。基本方針には情報発信についても記載がありますが、何に対してどう発信するかといった細かい計画は提示されてないので、明記するのはよい方法ではないかと思います。

○会長 アンケートでは市民の危機意識が薄いとも回答いただいておりますが、労働人口の減少など統計データを目に見えるかたちで掲載するというのでしょうか。

○委員 わかりやすく可視化されると、何十年後はこの行政サービスは受けられないということがわかり、自分たちには何ができるんだろうという当事者意識が生まれやすいと思います。色々な方がいますので、図やグラフ、インフォグラフィック等を用いて見せていくことが必要かと思います。基本方針は文字が大きくて読みやすいですが、もっとわかりやすくしてよいと思います。

○会長 ありがとうございます。広報や意識の啓発のためのグラフ、PDCAのサイクルを回すためにも具体的な指標があるとよいという意見でした。次の委員お願いします。

○委員 この計画が誰に向けたものなのかが気になっています。社会福祉協議会でも地域福祉を推進するための活動計画を作成中で、今までは社協が何をするか、という社協の行動計画という作り方でしたが、次からは行動計画とは別冊にして、市民の方たちが、自分たちがこれをやるんだ、と思えるような作りに行きたいと思っており、似ている部分があるので勉強させてもらっています。ですので、皆さんがどういう作りをイメージされているかということと、市として進めたい協働のあり方がどういう方向性なのかによって、計画の全体的な作り、読み手が誰で、誰が一番に協働を進めていくのかというところが変わってくると思います。もし市民向けに、手に取った人が自分事だと思えるような作りに行くといいことであれば、協働とはどういうことなのかイメージがつくような、自分がやっていることも実は協働である、もう一步これを先に進めたら協働になる、などイメージできるような作りにできるとよいと思いました。また、他の市区町村では別冊で事例集を作って出しているところもあり、そういった具体的な事例が見て取れるようなものがあるといいと思います。

○会長 ありがとうございます。計画の読み手である市民が、協働の担い手は自分たち市民なんだという自覚を持ってもらえるようなつくりをする必要があると思います。事例集について、前回岡崎市と松戸市の計画を参考に配付しましたが、このように計画の中に事例集の作成が盛り込まれていれば具体的に実現していくと思います。他に思いついたことがあればまた後で受け付けますので、次の委員お願いします。

○委員 公共サービスについて市民が消費者としてのみ対応していると、現在のレベルの公共サービスはもう維持できないので、市民も参加者として、提供されるだけでなく生み出す

側として参画しなければいけないという意味で協働が必要なのだと把握しています。そのうえで、市が提示している協働・共創によって課題を解決する人を募集します、というものについて、気持ちを持っている人はいると思いますが、なかなか提案はしていただけないと思います。アンケートでは「夢の育成」と理想的に書きましたが、こういうことをお互いに解決していこう、という段階で提案を持ってくる層はいると思います。そういう層を開拓するため解決策が必要だと思います。「協働の種の育成の伴走」と具体的な書き方にはなっていませんが、これから詰めていければと思います。私は中学生や子どもの学習支援の仕事をしており、学校内フリースクールとして、高校でカフェなどをしています。ボランティアの方から市民以外の方にも力を貸してほしいと言われることがあります。仕事上は関与できないことがあり、そういう枠を超えて何かをやりたいという気持ちを持っているのに、何もできないのがもどかしいと思います。そこをどうしたらいいのか、一歩踏み出せるような、後押しできるような枠組みを作りたいという気持ちがあります。

○会長 ありがとうございます。「協働の種の育成の伴走」は心に響く言葉ですので、具体的にどうしていくかは皆さんからも意見をもらえればと思います。学校施設の活用となると教育委員会など他のセクションとの連携も視野に入れることが必要かと思いました。次の委員お願いします。

○委員 各主体の特性や適している事業に関する説明について、計画の読み手が市民だと想定した場合、より実現できそうだと思うためには、個人ではできないことでもこの団体と協働すれば実現しやすい、といったことがわかるページがあるとよいと思います。他自治体の計画も事前に確認しましたが、現状の統計と実際の事例と、今後の指標が載っている計画があったので、そういったわかりやすい事例や指標があれば、こういったことなら自分の事業も当てはまるかもしれないと思ってもらいやすいと思います。

○会長 ありがとうございます。統計や指標をわかりやすく伝えることと、事例集は他市もやっているように有効な方法だと思います。次の委員お願いします。

○委員 基本方針から引き継ぐと言われても、何を優先にすべきかわからず、結局全部を選んでしまいました。具体的にこういうことやった方がいいんじゃないか、というような例題があれば少し頭の回転も効きますが、文章だとなかなか頭に入ってこないの、工夫していただければと思います。

○会長 アンケートには、自治会連合会への加入や、個々の自治会の会員数も減少傾向にある、役員や班長の成り手も少なくなっていると書いていただいていると思いますが、こういうことができれば改善できるのではないかと、いったご意見はありますか。

○委員 自治会に対する市からの補助がなく、関心も少ないです。何かしらの補助金を出す

ことによって自治会の活動に対する関心が市の方にも出てくるのではないかと思います。補助が全くないわけではなく、資源回収や回覧などに対しては一定の補助が出ていますが、自治会の活動内容に対する補助の検討が全くなく、自治会活動に対する指導や援助がないため活動しづらいというところがあります。

○会長 事務局に聞きますが、自治会活動の担当は地域コミュニティ課になりますか。

○事務局 当課と同じ市民協働推進部の地域コミュニティ課が担当となります。

○会長 先程は教育の部署の話がありましたが、今回は地域コミュニティ課というセクションとの関わりや提携が必要になってくると思います。ここは協働共創推進課ですので、ある意味積極的に、こういう課題があるということを市の中で発信してもらおうチャンスだと思いますので計画にも反映できればと思います。

○委員 地域コミュニティのベースになるのは自治会だと思います。市として自治会をもう少し大事にしないと加入者も増えないと思います。

○会長 ありがとうございます。松戸市の計画では自治会のことに多く触れていたのを確認したところ、担当が市民自治課というところで、自治会を担当している課が市民協働のことも担当しているため、自治会を支援することが計画の中に含まれていたようです。府中市では役割分担は違いますが、地域コミュニティ課に対し、自治会が抱えている課題を解決することで協働を活性化できる、ということを発信できると思います。次の委員をお願いします。

○委員 基本方針の冊子がせっかくありますが、市民にとっては何を言っているのかわからないですし、プラッツなどもあるのに広まってないと思います。やっていることをもっと大々的に広げていけるものがないというか、どうやったら広げていけるのか、自分はどういう協力ができるかを話し合えると思ってこの会議に参加しましたが、参加してみたらすごく難しかったです。言葉をもっとわかりやすくして、こんなことをやっているよ、皆もこういうことができるよ、といったことを、言葉を柔らかくして提示できるとよいと思います。

○会長 ありがとうございます。基本方針がわかりにくい理由の一つに、非常に抽象的なレベルで書いているということがあると思います。今回、都市宣言、条例、計画という三層に再構成する目的として、抽象的なレベルに留まっている基本方針の中身を具体的なところに落とし込んでいくことがあると思います。次の委員をお願いします。

○委員 一番のポイントとして、この会議の委員が理解できていないようでは一般の市民はそうそうわからないと思います。わかりやすい言葉で、わかりやすく説明することが基本で、わかりやすければ参加してやってみようと思えますが、わかりにくいと思ったらそれ以上学

んでみようとは思わないと思います。また、常々、色々な見方をすることが非常に大事だと思っており、協働の取組についても、目先と未来が本当は違うものなのに一緒にいると思います。今の問題を解決すると言っておきながら、まちづくりと言っていますが、目先と未来は別のものです。また私は、人によって目先を重視する人と、遠い先を重視する人と、キャラクターが二つに分かれると思っているのですが、そのためにこの基本方針も抽象的になってしまっていると思います。府中市をどういう町にしたいかという話と、今起こっている問題を解決するという話は解決への方向が全く違うため、両方にアプローチすべきだと思います。協働とは何かという外枠的なところを認知させることと、具体的に協働活動をやっていきましょうということも二面性であり、混同しない方がいいと思います。協働という言葉だけを浸透させようとしても、結局何かわからなかったら意味がないので、今やれること、例えばこういうことが協働であるという事例を見せることも必要だと思いますし、そのうえで協働とは何かを広めるという二面のアプローチが必要です。資料に関しても、詳細と、ふわっとしたイメージと両方のアプローチがあると思います。詳しく紹介したホームページなどがあっていいと思いますが、その入り口となる、協働はこういうことなんだ、とわかるイメージの両方があるべきだと思います。この協働のリーフレットも抽象的なものだと思いますが、協働ってこういうことなんだ、とわかるものが表にあって、その詳細が裏に書いてあるというアプローチをしないことには中途半端なものになってしまうと思います。協働に関する部署の人たちにとっては知っていて当たり前のことでも、市民は全然知らないということがあり、私たち委員もそういう意味では前者になってきていますから、全然知らない人に話してみてもどこまで理解されるかということを試してみるなど、体感することも大事だと思います。具体的には、前回アンケートを取るという話でしたが、1, 500人では足りないと思います。多様な市民を年齢や在勤・在学といった色々なカテゴリーに分けたときにそれぞれ200～300人ぐらいから聴取しないと信用のあるデータにはならないと思います。アンケートはとること自体も広報活動になります。予算的にはなかなか難しいかもしれませんが、20, 000人に聞いて30%しか返ってこなくてもそれはそれで意味があるという感覚で、アンケートは極論でいえば20万人ぐらいに取った方がよいのかと思います。プラッツの話もありましたが、プラッツと協働が全然繋がらずもったいないと思います。5階に交流スペースもありますが、9割方が個人の勉強で利用されており、それを認めているのはおかしいと思います。最低でも2人以上で使うというルール作ること、知らない人と座わったり、しゃべり始めたりして、面白いことが始まるというような交流が生まれると思います。ちなみに先日行った明石市では駅前にいい施設ができて、交流スペースには色々な人たちが平日昼間から集まってしゃべっていてすごいと思いました。箱モノを作っただけではなくて運用までしっかりと見てやっていると思います。今のままで仕方ないとするのではなく、何かやってみることも一つの協働で、それこそ市民からアイデアが出てくるようにしないといけないと思います。もっと面白いことができないのか、市民から言ってもらえるような環境づくりも交流活動のひとつだと思います。

○会長 明石市の施設は、皆さん活発に活動したり、グループで話をしたりしているとのこ

とですが、何か仕掛けがあるのでしょうか。

○委員 そこまではわかりませんが、明石市のことですから、かたちだけではなくて、きちんと運用されるようにルールを作り、うまくいくシナリオ作りがちゃんとされ、運用管理もされているのだと思います。

○会長 ありがとうございます。ちなみに事務局に確認をしますが、府中市とプラッツは、どういう関係性ですか。

○事務局 プラッツは府中市が設置し、運営は指定管理者が行っており、市と協議をしながら運営しています。

○会長 施設は市が作って提供しているが、実際の運用は委託を受けた組織団体がやっているということですね。運用については協議をしながら進めているとのことですが、より市民協働に貢献できる運用をしていただくための意見を、市からも出せるのですか。

○事務局 はい。毎月の会議で意見交換をしています。

○委員 プラッツで相談員も拝命していますが、残念ながら年に2回ぐらいしか相談がないので、それをどうするかについて提案をしています。なかなか動いてもらえません。6階の起業支援スペースの運用方法も提案をしたことがありますが、動いてもらえませんでした。市と委託事業者で話をしているとのことでしたが、民間も含めて考えないといけないのではと思います。以前、協働まつりにも参加しましたがほぼ意味がなく、理由はプラッツもわかっていていると思います。当時はコロナ禍だったためあまり来場してほしくないというような発言もあり疑問でしたが、今はその理由もなくなっていると思います。市と委託事業者間の協議では輪が小さすぎて、現状の改善程度しかできないのであれば、もったいないと思います。

○会長 プラッツは市民協働における中間支援組織という位置づけで、大きな役割を果たしていただいていると思います。また事業者も市民の一つとして位置付けていますので、そこをもっと巻き込む仕組みを考えるのもこの計画のあり方かもしれません。それでは、次の委員をお願いします。

○委員 アンケートに回答してみて、こんなことをやるんだな、というのがようやく見えてきたと思います。先ほど出たように事例集があれば、こんなことができるんだ、と理解できると思います。それと、協働に対する市民の意識を高める施策があったらありがたいと思います。私は文化センターのコミュニティ協議会に属していますが、行事がすごく多く、町会や青少対（青少年対策地区委員会の略称）など大勢の地域の方たちが入り込んで協働していますが、協働しているという意識なく、協働しています。この間も夏祭りがあり、賑やかに、

地域の方が参加してくださいました。やはり地縁を作る大きな元が、文化センターなのかなと思いました。そして今年びっくりしたことは、中学生がお店を出したいと言ってきたことです。自分たちで企画運営するならということ指導者のもとやってもらったところ、本当に大勢の子どもたちが来てチョコバナナを無事600本以上売り切り、すごく達成感持ち、来年もやると言ってくれました。しかし、子どもたちがお店をやるとなった場合、資金がありません。今回はコミュニティ協議会が仕入れましたが、プラスになって返ってきたので本当にすごいと思いました。行事のおかげで子どもたちが地域で何かしよう、というものに目覚めてくれて、これこそ子どもたちと協働しているという感覚を得ることができました。これは市民と市民の協働かもしれませんが、大元である文化センターの職員も一生懸命やってくださいます。府中市はお祭りやスポーツがたくさんあるので、そこで色々な支援をもらう方が増えていると思います。しかし、新しい協働を作りあげようという、既にあるところではない協働というものは、やはりもっとわかりやすく市民が読んでみようと思えるものがあったらいいと思います。

○会長 ありがとうございます。まさに一つの事例ですね。文化センターで中学生が主体的に活動していたということで、そこから新しい協働のかたちを考えるきっかけになったと思います。それでは最後に、副会長からお願いします。

○副会長 私は学生たちと一緒に地域を元気にするプロジェクトをしたり、プラッツの運営協議会の会長をしたりしています。常に感じるのは、皆さんの発言にもあったように市民活動や協働という言葉は聞きなれない、自分と違う世界に感じるところがあるのかもしれないということです。アンケートには参入障壁の高さと書きました。計画については、自分は仕事上見慣れているのでよくあるかたちに思っていました、皆さんがわかりにくいと言うことを強くおっしゃっていただいたのはそのとおりで、表裏で二つのアプローチが必要だという意見もそのとおりだと思います。ちゃんとした計画も作るべきですが、事例集ももしかしたら見てもらえないかもしれません。動画や「きょうちゃんどうちゃん」を活用してSNSで発信するのもよいと思います。アンケートの回答への補足として、計画に追記した方がよい点についてですが、市民の定義に関して、市民とは誰のことか説明が書いてあったと思いますが、恐らく市民という言葉にはもう少し意味が込められていて、危機感や責任をもって地域のために動くといった市民性、シティズンシップのような意味が込められていると思い、そういうところも本文に書いた方がよいと思います。シティズンシップには、最初から持っているものではなく、それを教育して育てなくてはいけないという意味も込められていますので、大事な言葉としてある、ということが本文に書いてあるとよいと思います。普通の人であっても一歩踏み出せることが示せるとよいと思います。後は統計データや到達目標、協働の対象分野についてももっと平たい言葉にできるとよく、私はスポーツの研究をしていますが、すごくプライベートに近いものであるにしろそれも市民活動であって、これも市民活動だよ、といったことが書いてあるとよいと思います。後は市がどうやってそれを推進していくのかという推進体制も入っているとよいと思います。松戸市の計画には担当の部署が書

いてあり、それを横断してどうやって行くかみたいなどころまで書いてあってもいい気がします。課題に感じている点としては、どう参入してもらうかを考えていくことが大事だと感じており、最初からすごいことをできる人たちは多くないと思いますので、そこに寄り添うことも大切です。プラッツの協働まつりも、実は市民の皆さんが運営委員として参加しており、外部へのインパクトが少なかったとしても、次への一步のために試行錯誤されている姿を見てきました。それはそういう意味として捉えつつ、変える部分もあることは確かですので、色々な人を巻き込んで、そこにいろんな意見を取り入れ、成長を支援すること大切だと思います。市民活動に成果を過度に求めすぎるのではなく、長期的に、一步一步支援して変えていってもらうようなスタンスの伴走型支援を行っていくことが大事かと考えています。

○会長 ありがとうございます。市民という言葉の定義について、社会や地域に参加する主体、責任や危機感をもった主体的な市民としても意味もあるとのことでした。私から1点付け加えますと、松戸市の計画では市民協働推進の事業として各課が何をするかが書いてありますが、府中市の場合、それは総合計画の方に含まれており、施策ごとに具体的な取組があげられています。市民協働の推進をしていくとなると、協働共創推進課だけではできないことが多々ありますので、市全体で様々な課が関わって市民協働を推進するための計画を作っていく必要があるのではないかと思います。これで、全員の意見を伺えました。他の委員の発言を聞いて付け加えたいことなどはありますか。もしなければ、次の審議事項に移ります。審議事項2、「市民協働・共創促進事業」の評価基準等の修正について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 説明します。

（審議事項2について、資料2に基づき説明。前回の第2回会議での意見を踏まえ、資料2-1のヒアリングシートの評価項目のうち「斬新性」を「独自性」に変更し、連動するかたちで資料2-2の採択者審査基準についても「斬新性」を「独自性」に改めた。その他、「協働の視点について」を、「協働の視点」に改めた。）

○会長 説明が終わりました。事業実施後の評価で使用するヒアリングシートの「斬新性」を「独自性」に改めるとともに、事業を選定する際に用いる審査基準も変更したということです。何かご質問はございますか。

○委員 前回も伝えましたが、この評価シートがどうかということが議論的になっていますが、本来は何のために審査をするのか、実際はどういう視点で審査するのかということをあらかじめ説明していただき、その頭を持って審査当日に向かうというスタイルを確立していただければ細かいことは気になりません。つまり、審査する時になってこの評価項目を読むのではなく、事前にしっかりと説明を受けて自分たちで納得してから審査ができるよう、審査員への説明を重視していただきたいです。

○会長 ありがとうございます。他に質問はございますか。よろしければ、次の審議事項に移ります。審議事項３の市民協働の取組の進捗管理について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 説明します。

（まず、資料３に基づき「総合計画」で施策ごとに定めている「協働により推進したい取組」の進捗状況について報告。資料３－１が成果をまとめたもので、表やグラフから読み取れる内容を「まとめ案」に記載したので、ここに会議で出た意見を追加して答申書に記載するイメージで意見交換をしていただきたい。資料３－２は各施策の詳細である。）

○会長 説明が終わりました。総合計画における「協働により推進したい取組」の令和６年度の進捗状況について報告があり、これに対する意見を答申に反映させるということでした。表やグラフから読み取れる内容は先に記載してありますが、他に意見があればいただきたいということです。何かご意見やご質問はございますか。

○委員 資料３－２のうちピンク色に着色された施策が保健・福祉分野ということでよいでしょうか。資料３－１の「２．分野別の進捗状況」で、保健・福祉分野の事業は２０件となっていますが、資料３－２では２１件となっているようです。

○事務局 ピンク色に着色された施策が保健・福祉分野となります。申し訳ございません。確認し、次回修正させていただきます。

○委員 資料３－２の「Ｒ６年度の取組実績評価」については、担当の課による自己評価でしょうか。

○事務局 担当課による自己評価となります。

○委員 施策の分野によって成果が出にくかったり、解決したとは言いにくかったりする場合はあると思いますので、そういった分析あるとよいと思います。

○会長 ありがとうございます。確かに分野によってこういうかたちでの評価が出しづらいという場合があるということで、実際に産業・都市基盤の分野では評価が低くなっています。

○委員 これは前回説明があった、何カ年かに渡る「総合計画」の途中経過ということで、順調にこなせているという報告が資料３－１かと思いますが、これを見ても、そうですかといしか言いようがないような気がします。それぞれのテーマに対して新しい課題がどんどん出

てきてそれに対応していくのであれば、逆に「着手中」がどんどん増えるほうがいいという話になると思いますが、何年か前に計画したことを固定してやっているのであれば、5に近い評価になっていくと思います。時間があれば、全施策について、もっといい方法がないか委員で議論し、それを踏まえて来年の方針にするなど意見を言えるなら、この委員の位置付けが理解できますが、市が頑張っていてやられていることを評価するのはおこがましいような気がします。具体的にこの課題に対して議論してもらいたいというのがあれば、意見交換をしやすいと思います。

○会長 この推進会議の立場で総合計画の進捗にどのようにフィードバックするかは難しいですね。

○副会長 確かに「着手中」の施策が0件というのは、もうやることがないように思われるかもしれません。資料4-2を見ると新規事業もあるようなので、新しく始めたものを評価する項目があってもいいと思います。周年記念事業等、計画的にやったものは終了して仕方ないですが、市民の困りごとは計画的に出てくるものではなく、たまたま見つかるものもあり、少し伴走をすれば成果が出ることもあると思います。しっかり寄り添った結果のものが成果としてここに上がってくるといいと思いますし、もっとできるから来年はこれをやろうといったことが可視化されるようなあり方を考えてもいいと思います。

○会長 ありがとうございます。委員からのご意見を踏まえて事務局から何かありますか。

○事務局 ご意見ありがとうございます。令和6年度分については各課による評価が既に終了しているため、本日提示した内容で修正等がなければ答申いただきたいと思います。次年度以降はどういったかたちで皆様に議論や評価をしていただくのがよいか、考えさせていただきます。

○会長 ここで話に出た資料4に記載のある新規事業に関してはこの後で扱います。これは、今審議していただいている資料3の令和4年から令和11年度までの8年間を期間とする府中市の第7次総合計画の進捗管理とは少し性格が異なるものです。

○委員 評価段階の4、「協働で実施したことにより何らかの効果を市民に還元できた」について、「何らかの効果」というのが何か疑問に思いました。恐らく5に達してはいないが効果があったものとして選択されたのだと思いますが、市の職員にも異動があると思いますので、評価段階として共通の認識を持っておいてもらえるとよいと思います。

○事務局 ありがとうございます。おっしゃるとおり「何らかの効果」は自己評価のため、どういう状態なら効果があったのか、どういう状況なら解決なのか、各課に話を聞いていくと職員によっても判断にばらつきがあり課題と感じております。実際、都市基盤や産業に関

する部署に話を聞いていくと、私からすると何らかの効果はあるように思えても、効果が測定しづらいというところで、3の「効果不明」を選んでいる場合もありましたので、次回の照会では、こういった場合は4、こういった場合は5、などわかりやすくして行く必要があると考えております。

○会長 ありがとうございます。他に質問がなければ、資料4「令和6年度協働事業実績調査」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 ご説明いたします。

(資料4に基づき、令和6年度に実施した協働事業の具体的な実績について報告。資料4-1は、協働の形態や協働先ごとに件数をまとめたもので、資料4-2が各事業の詳細、資料4-3が後援、附属機関、パブリック・コメントの実施件数の一覧である。資料4-1では、表やグラフから読み取れる内容を「まとめ案」に記載したので、ここに会議で出た意見を追加して答申書に記載するイメージで意見交換をしていただきたい。)

○会長 説明が終わりました。令和6年度の協働事業の実施状況について報告があり、これに対する意見を答申に反映させるということでした。表やグラフから読み取れる内容はあらかじめ記載してありますが、他に意見があればいただきたいということです。何かご意見やご質問はございますか。

○副会長 先ほど申しあげた新規の事業に関してはここで分析されていたので大丈夫です。そのうえで、事業の成果と協働の成果は少しずつれているもので、例えばスポーツ大会をやったことへの成果と、その結果健康になったというような成果ではずれてくると思います。協働の成果というのをどう捉えるかっていうことは、ちゃんとこちらでも理解するし、それを分かりやすく担当の方に伝えていくことも必要なのかなというふうに感じます。協働の原則の理解状況も踏まえて、考えてみてもよいと思います。

○会長 協働の成果や効果について色々な評価があがってきますが、それが具体的にどういうことを指しているかということですね。基本方針でも市民協働における役割分担の効果は何かなど記載がありますが、そういうところも踏まえて効果の測り方を考える必要があります。

○委員 コーディネーターの有無について新しく設問に入れたということですが、コーディネーターの有無の判断基準は何なのでしょう。市の職員がコーディネーター的な動きをしているのではないかと、コーディネーターと呼ばなくても中間的な立場で繋ぐことが多々あるのに、遠慮をして入れていないのではないかと思います、いかがでしょうか。

○事務局 ありがとうございます。各課に照会をかける時に、コーディネーターについて説明を記載しており、そこでは「市民等と市を相互に媒介し連携を促進するほか、課題解決に向けた調整を行う人」と示し、「協働共創推進課の職員やプラッツの職員、各課の職員、市民等を想定しています」と記載をしておりますので、各課の職員がコーディネーターになることも想定して照会をしています。

○会長 ありがとうございます。基本方針にもコーディネート機能の拡充に関する記載があり、市の職員も自分がやっていることはコーディネーターとしての役割なんだということを認識していただく必要があると思います。

○委員 評価の指標に関して、数字で測るのも、主観で測るのも難しいのかなと思うと、必ずしも数字を求めなくても、職員の意識が変化したとか、挑戦できたといった過程を評価するようにしてもよいと思います。

○委員 評価の仕方を明確にしないと次に進めないというか、実施状況を羅列しただけでは次のステップには進めないと思います。これを見ても次にどうするのがわからないし、どういう風に評価するかも具体的に表現しないと何もわからないような気がします。評価段階の4や5、意識状況と言われてもその意識がどういう意識なのか、わからないと思いました。

○委員 資料体裁に違和感があるのですが、マイナスの数字のところは赤字にしたり、あるいは△で表記にしたりの方が見やすいと思います。フォントに関しても、Arialやメイリオあたりにすると数字は非常に見やすくなります。表現の問題ですが、より見やすい資料作りという意味でご提案します。

○会長 こういった推進会議内での意見交換も市と市民との協働だと思います。他にございますか。

○委員 横文字のカタカナ、例えばパブリック・コメントやイノベーションなど、皆さんはパッと見てわかるのでしょうか。一般の人が見ても何だろう、となりそうなので、改善していただいたほうが助かります。

○会長 ありがとうございます。基本方針では、後ろの方に用語解説のページがあります。どうしても使わざるえない言葉や、何度も出てくる言葉についてはカタカナを使いつつ、用語説明をすることにしていきますので、これから作る計画でも同様の対応が必要だと思います。

○委員 自分が実施している事業が資料4-2に出ていました。委託事業ですが、これも協働事業としてあがっており、このコーディネーターとは私だと思います。協働している意識は全然なく、業務委託として毎日仕事として子どもたちを教えていただけでしたが、協働し

ていたということでびっくりしました。

○会長 ありがとうございます。事務局から何かありますか。

○事務局 資料中の表現などすぐに変えられるものは変えていきたいと思っています。

○会議で ほかにご意見等がなければ以上とし、本日の審議事項もこれで全てとなります。全体を通してご質問等はございませんか。

○委員 「協働しよう。そうしよう。」というフレーズはすでに決定して進んでいると思いますが、子ども向けなのであればよいですが、コアとなる層に対してはどのようなかなと思っています。自分だったら、せっかく協働・共創なので「そうしよう。」の「そう」を共創の「創」にすれば、何だろうと思ってもらえて、デザイン的には「創」の文字を45度傾けるなどすれば、より大人にも浸透するかなと思いました。

○会長 ありがとうございます。事務局から何かありますか。

○事務局 ありがとうございます。「協働しよう。そうしよう。」という通称は、条例の条文に規定されており、市民が決めた合言葉ですので、変えることは難しいですが、PRの際は対象に応じて見せ方を工夫するなど、伝わるようにしていきたいと思っております。

○委員 通称も条例の中に記載があるのですか。

○事務局 はい。条例の「基本理念」の項目の中に「協働しよう。そうしよう。」という合言葉があり、これは市単独で決めたものではなく、市民による応募と投票で決めた言葉になり、そこにも協働の要素が入っていますので、大事にしていきたいと思っています。また、「共創」という言葉については、前期の推進会議でも定義が明確に決まりませんでした。本来であれば「協働・共創に関する条例」といったようなかたちで条例に盛り込む可能性もありましたが、会議の中で府中市としては協働に特に力を入れていくべきということになりました。しかし、「共創」という言葉は当課の名称にも入っているくらいですので、計画では言葉を定義づけて盛り込めるよう、皆様と共に考えていきたいと思っております。

○委員 さらにマーケティング的な視点で言うと、「そう」の字にバツを書いて、上に漢字で「創」と入れるようなデザインも一つの方法だと思います。認知にはそういう引っかかりを作ることがポイントだと思います。

○事務局 ありがとうございます。対象者を見極めて、実際に取り組んでいただける大人の方にはそういった見せ方もありうると思いますので、検討いたします。

○会長 ありがとうございます。他にご意見等がなければ、事務局から連絡事項をお願いします。

○事務局 ありがとうございました。次回の会議は9月1日（月）午後2時から本日と同じ第2庁舎3階打合せ室で実施します。なお、8月20日（水）に実施を予定していた「市民協働・共創促進事業」の審査会は、開催を中止することになりました。エントリーがあった1件について、審査会にかけるための最低要件を満たしているかを確認と、不足している点については提案者と調整を進めましたが、結論として、審査にかける段階に達していないと判断しました。「協働・共創の窓口」には、今年度はすでに24件のご提案をいただいております。そのうち「市民協働・共創促進事業」としての実現が望ましい提案については、12月の審査会に向け、引き続き関係課とのマッチング、提案実現に向けたサポートを継続してまいります。最後に、当課の公式インスタグラムを開設しましたのでお知らせします。写真や動画を通じて協働に対するイメージを持っていただきたいと思いますと思っています。

○会長 ありがとうございます。何かご自身が所属している団体等からお知らせのある方はいらっしゃいますか。なければ、本日は以上で散会とします。皆様ありがとうございました。